



『東北圏だより』

大館市歴史的風致維持向上計画策定 ～ 認定証授与式 ～ シンポジウム開催

秋田県大館市

大館市は、人口約7万4千人で秋田県の北部を流れる米代川の中流域に位置し、秋田、青森、岩手の北東北三県をつなぐ交通の要衝の地です。

当地は、古の時代「火内」と言われ、平安時代は奥州藤原氏、鎌倉時代は浅利氏が治めてきました。その後、秋田に国替えとなった佐竹義宣の家臣である小場義成が町割りをを行い、大館佐竹氏の城下町が形成されてきました。

また、鉱山や秋田杉など自然資源に恵まれ、米代川の舟運や羽州街道を通じて経済が発展しました。市内には祭礼や民俗芸能、伝統文化が育まれていて、天然記念物秋田犬や比内鶏などの誇るべき財産も多数あります。

「大館市歴史的風致維持向上計画」は、先人から引き継いできた地域固有の文化や伝統・風習に新たな光を当て、後世に伝えていくことで、市民が大館市に暮らすことに誇りと喜びを持てるようなまちづくりを進めるために策定しました。

策定にあたり、地区座談会やまち歩きイベントの「大館歴まち散歩」を開催し、歴史まちづくりの周知や認識の向上を図ってきました。

去る3月17日には「大館市歴史的風致維持向上計画」が、全国で60番目、東北では8番目、秋田県では初の認定を受けました。

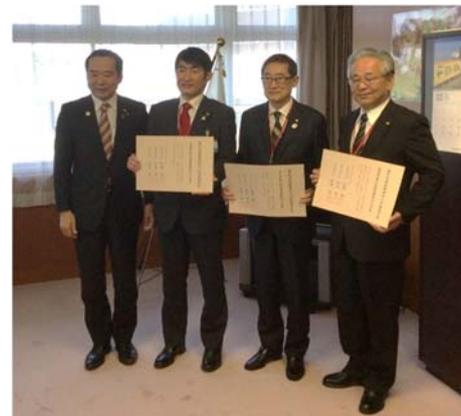
本計画では6つの歴史的風致を取り上げ、22の事業を今後10年間かけて実施することを定めています。

重点区域は、重要文化財の「大館八幡神社」や歴史的建造物が残る城下町を中心とする市街地です。春に桂城公園（大館城跡）で開催される「秋田犬展覧会本部展」、秋には「大館神明社例祭」、冬には「大館アメッコ市」が歴史と伝統を反映した活動として受け継がれています。

本計画認定後には「大館市歴史まちづくりシンポジウム」を開催しました。全国における歴史まちづくりの動きや歴史を活かしたまちづくり等、他市の事例に学び、今後も広域連携や計画の推進、歴史的風致の理解を深める取り組みをさらに進めていきます。

歴史・文化・伝統を発信し、日々の営みが風土として大館に息づき、未来へつなぐ「景観十年・風景百年・風土千年」の言葉を胸に、本計画が当市発展の礎となるよう多様な事業の遂行と、その検証や改善に努めていきます。

Civic pride 市民の誇りとともに



▲認定証授与式後の記念撮影
（同時に認定を受けた山梨県甲州市、熊本県湯前町と共に認定証を受け取りました。）



▲大館市歴史まちづくりシンポジウムの様子

※詳細は、大館市のホームページをご覧ください。

→ <http://www.city.odate.akita.jp/dcity/rekisimati/133-8221.html>

「手づくり郷土賞」は、全国各地において地域づくりに取り組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する国土交通大臣表彰制度です。平成28年度で31回目の開催となります。

今年度、東北圏からは、岩手県陸前高田市の「桜ライン311～未来へのまちづくり～」と、山形県新庄市の「新庄市エコロジーガーデン～先人が築いた歴史を次の世代へ～」、新潟県関川村の「羽越水害の教訓を伝える「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」」の3件が一般部門で選定されました。

また、選定団体全22団体からプレゼンをいただき、グランプリを決定する「手づくり郷土賞グランプリ 2016 ～磨いて 光った 郷土自慢～」がはじめて開催され、選考により一般部門において「桜ライン311～未来へのまちづくり～」が「グランプリ 2016」を受賞しました。

認定証授与式が、2月21日に関川村、3月5日に陸前高田市、22日に新庄市で行われました。

『桜ライン311～未来へのまちづくり～』（認定特定非営利活動法人 桜ライン311）

陸前高田市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。その記憶を風化させないため、同年10月に「任意団体 桜ライン311」を発足し、春と秋の年2回、市内の約170kmに渡る津波到達ラインに桜を植樹する活動を行い、これまでに212箇所1,020本の植樹を実施しました。また、小中学校を中心に、後世の人々に津波の恐れがあるときには桜並木より上に避難するよう伝承活動を行い、活動を通じて地域の避難行動の重要性や防災意識の向上に貢献していくことを目指しています。



▲認定証授与式の様子



▲地元の小学生と植樹会を実施

『新庄市エコロジーガーデン～先人が築いた歴史を次の世代へ～』

（新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会）

地域全体として、若者の人口流出や地域活力低下などの課題があり、平成24年に「新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会」を設立しました。同年5月から月に1度手づくり市「キトキトマルシェ」を開催し、30店舗以上の店が軒を連ね、昨年度は1万人を超える来場者数でにぎわう人気の催しとなっております。効果として、地域の農業振興、地域振興に寄与し、ボランティアの若者の地域に対する意識の変化（地元の良さの再発見）やコミュニティ形成、交流人口の拡大に繋がっています。



▲認定証授与式の様子



▲ボランティアスタッフである若者たち

『羽越水害の教訓を伝える「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」』

(えちごせきかわ大したもん蛇まつり実行委員会)

1967年に発生し、甚大な被害を及ぼした羽越水害。この水害を後世に伝える「大したもん蛇まつり」を1988年から行っています。ギネスに認定された竹とワラで造った82.8mの大蛇パレードがまつりの主役で、500人もの人々が交代で担ぎ村内を練り歩きます。準備段階から実行委員会を中心に村民と全国からのボランティアが一丸となって取り組んでいます。また、全国各地のまつりのパレードにも参加し各地との交流も生まれています。全国に知られるまつりに成長し、「小さな村でもやればできる」と村民の自信と誇りになっています。



▲認定証授与式の様子



▲500人の担ぎ手が村を練り歩く大蛇パレード

人事異動

4月1日付け、東北圏広域地方計画推進室の人事異動がありましたので、お知らせします。

(新副室長)	菅原 克也 (すがわら かつや)	東北運輸局 自動車交通部 旅客第一課長から
(前副室長)	島田 順一 (しまだ じゅんいち)	退職
(新副室長)	伊藤 一哉 (いとう かずや)	東北運輸局 観光部 観光地域振興課長から
(前副室長)	伊藤 祐二 (いとう ゆうじ)	退職

編集後記

新年度に入り、推進室のメンバーも入れ替わりました。新体制の下、計画の推進に向けて取り組んで参りますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。